

氏 名： 小手川 良江

学位の種類： 博士（看護学）

学位記番号： 甲 第 4 号

学位授与年月日： 2022年3月14日

学位授与の要件： 学位規則第4条第1項該当

論文題目： [和文]

中堅看護師のキャリア発達におけるレジリエンスの様相：  
育児経験のある女性看護師のライフストーリーの分析から  
[英文]

The Aspect of Resilience on Career Development of  
Mid-Career Nurses:  
Analysis of the Life Stories of Female Nurses with  
Childrearing Experience

論文審査員： 主査 高橋 清美

副査 本田 多美枝（主研究指導教員）

副査 山田 聡子（第1副研究指導教員）

副査 西片 久美子

副査 山田 典子

## 論文審査の結果の要旨

地域完結型の医療を提供するためには、専門的知識と技術および生活経験を有する中堅看護師の役割は重要である。しかし、中堅看護師はライフイベントによる変化を多く経験する世代であるため、組織的な継続教育のみではキャリア発達を支えることが困難である。そのため中堅看護師に対するレジリエンスを強化することが必要だが、先行研究ではレジリエンスに対して一時点での影響を捉えるものが多かった。この背景を受けて、本研究は、中堅看護師のキャリア発達におけるレジリエンスの様相を明らかにすることを目的としている。

本研究は、中堅看護師が、結婚、出産、育児等のライフイベントを経験しながら、自己の望むようにキャリア発達することへの困難や、キャリアビジョンを描きにくい現状に対し、主体的にキャリア発達するために中堅看護師自身のレジリエンスに着目した。ワークライフバランスの推進体制は増加傾向であるが、看護師の退職理由が結婚、出産、育児、介護等といった家庭の事情であるため、ワークライフバランスの調整や周囲からの支援のみでは退職を防ぐことは困難を極める。そのため、中堅看護師のライフストーリーを複線径路・等至性モデル(Trajectory Equifinality Model：以下TEM)（サトウ，2009）を用いて分析

し、中堅看護師のレジリエンスの様相を可視化し、中堅看護師に必要な力や主体的にキャリア発達するための支援への示唆を得る点は、社会的意義を成すと評価できる。

本研究では、Walker & Avant (2005/2008) の概念分析アプローチ法を用いて概念分析を行い、看護師のレジリエンスの概念を明確にしたうえで、中堅看護師のキャリア発達におけるレジリエンスの定義を、「看護師個人の人生における役割、自己の価値観、看護師として働くことを意味づけしながら自分らしい生き方を模索する中で、本人が中堅看護師の時に感じた困難を乗り越え、その結果もたらされた自己の成長という一連のプロセス」とした。

本研究を実施するにあたっては、予備調査を実施し研究計画の実現可能性、データ収集方法、分析方法の検討を行い、研究方法の妥当性を検証した。研究デザインは、ライフストーリー法（桜井，2016）を用いた質的記述的研究デザインである。中堅看護師の時期（5年目～15年目未満）の経験を十分に語る事が出来る経験年数15年目以上の女性看護師3名にライフストーリーインタビューを行い、TEMにて研究参加者毎の分析と総合的な分析を行った。分析の結果、促進要因や阻害要因を含めたレジリエンスの様相を明らかにできたことより、研究方法の妥当性を検証することによって真実性を確保した。更に、予備調査結果より、研究参加者が語ったライフストーリーには、人生における育児の価値観と仕事の価値観で葛藤する状況が多かった。そのため、中堅看護師の特徴を描くためには、労働に従事する看護師の92.2%が女性看護師であること（厚生労働省，2019）や文献検討および予備調査結果から、研究参加者は育児経験がある女性看護師を対象とした。

本調査では、中堅看護師の頃に育児支援を受ける事が出来る経験年数15年目以上20年目以下の女性看護師6名を研究参加者とした。対象の人数を検討するために、数名のライフストーリーから経験の多様性や類型、経験の意味づけを読み解いた先行研究14件を概観したうえで、予備調査や研究計画の実現可能性を踏まえ研究参加者の対象人数を決定した。インタビュー方法は、事前情報記入シートで基本属性、経験年数ごとの出来事や経験の記載を依頼し、確認しながらインタビューを実施した。インタビューの回数は一人に対して計二回実施した。一回目のインタビューは経験年数ごとの出来事や困難と感じた経験、困難を乗り越えるために取り組んだ自身の行動や感情、周囲から受けた支援、乗り越える際に影響があったことを確認した。二回目のインタビューは一回目のインタビュー結果をもとに分析したTEM図を示し、困難を乗り越える際に影響した要因について具体的に確認した。データの真実性を確保するために、研究参加者に逐語録の確認や、一回目のインタビュー終了後にTEM図を作成し、次回インタビューの際にTEM図を提示し、経験を語る側の視点と、その語りを聴き取る側の視点を交差融合させ認識のずれの修正を行った。信憑性を確保するために、分析過程においてサブカテゴリーの生成やカテゴリーの生成を可視化し、指導教員と検

討を重ね、データの整合性や内容の妥当性を確認し合意に至るまで繰り返し検討した。ライフストーリー法を用いた研究の専門家からは逐語録で表現されている個人のライフストーリーを TEM 図に反映することができているのかについてスーパーバイズを受けた。更に、TEM を用いた研究の専門家からは、TEM 図による分析がレジリエンスのプロセスを表現できているのかについてスーパーバイズを受けた。このように、着実に研究を遂行するためのプロセスを経て得られた研究結果は、十分な信頼を得る内容と評価できる。

本研究の独自性は、中堅看護師のキャリア発達が職業的側面のみならず、生涯にわたる自己発達であることに着目し、各々の価値観や動機によって意味構成された主観的リアリティをライフストーリー法から導き、TEM 図にて6名の研究参加者毎の分析および総合的な分析を行い、レジリエンスの様相を明らかにしたことにある。研究参加者毎の分析では、様々な困難を経験しているが、ライフイベントや中堅看護師としての役割負担による困難を乗り越えるという共通した径路があることを明らかにした。更に統合した TEM 図から見出した時期区分を検討し、中堅看護師のキャリア発達におけるレジリエンスの様相は、困難を何度も経験しているが、周囲を調整しながら多くの支援を受けて困難を乗り越え自己の成長につなげるという一連のプロセスであることを明らかにした。更に、中堅看護師のキャリア発達におけるレジリエンスの様相は二つの局面があり、一つはライフイベントによる困難を乗り越える局面であり、もう一つは中堅看護師としての役割負担による困難を乗り越える局面であることを明らかにした。これによって、中堅看護師のレジリエンスを引き出し、何度も起こるキャリア発達における困難や危機を主体的に乗り越えるための支援を検討することへの示唆を導いている。レジリエンスに関する先行研究の多くは、レジリエンスを一時点で捉えて影響要因を明らかにしているが、本研究はレジリエンスをプロセスとして捉え、その影響要因も含めて可視化する分析手法は独創的であり、今後のレジリエンス研究に学術的貢献を果たすことが期待できる。

本研究は、研究題目から研究方法、結果、考察に至るまで論理的一貫性がある。研究の限界と今後の課題についても妥当な内容が記載され説得力のある論文であり、博士(看護学)の学位論文として十分な価値を認めた。

以上より、本研究は適切かつ妥当な研究方法によって、新たな知見が得られており、全員一致で「合格」と認めた。